

研修 - 1 「論理的思考力を育成する国語科学習の改善」研究委託事業 中間報告

発言者	提案の概要
司 会	<p>研修 1 の前半は，研究の概要及び実態調査の報告である。まず，研究の概要から始めさせていただきたい。</p>
提案者 1	<p>1 年次は，国語科で求められている「確かな学力」とは何か，また，その学力についての子どもの実態はどのようなのかについて調査研究を行った。P I S A 調査によって明らかになった課題は，「読解力」の低下である。そこで，香川県の児童の実態について，平成 1 7 年度の 3 学期に，2・4・6 年生約 1000 名の実態調査を行った。</p>
提案者 2	<p>第 2 学年の調査結果について説明</p> <p>・ 設問の意図 設問 は順序性の理解を，設問 は 2 年生なりに批判的に読み自分の考えを表現する力を問うもの。</p> <p>設問 の期待する解答である「様子を表す言葉や助詞から評価している」は 1 5 % であった。その他の解答を 4 つの類型にすると「表現のよさ」という観点からは述べられていないものが 3 6 % と一番多かった。このことから，2 年生は様子を表す言葉や助詞に着目できず，表現のよさに気付きにくいと言える。言葉や表現に目を向ける指導が必要である。全学年共通の問題では，6 年生においても期待する解答率は 6 0 % に達していなかった。低学年のころから 2 つの文章を比較しながら読み，具体的な表現に目を向けながら共通点や相違点を見つける学習経験を重ねることで論理的な思考力を育てることができるのではないかと考える。</p>
提案者 3	<p>第 4 学年の調査結果について説明</p> <p>・ 設問の意図 話し合い活動を想定している。発言内容が，よく分かるものになっているか，話し合いの中で発言がどのように位置付いているかを問うもの。</p> <p>設問 の期待する解答「『自分の意見をはっきりと決めずにいるのでよくない』と指摘できている」は 3 9 % で，設問 の期待する解答「『話題からそれた発言を述べているのでよくない』と指摘できている」は 2 4 % で，予想以上に低い解答率だった。どちらも話しぶりを評価するのではなく，自分の考えを述べるのにとどまっている児童が多い。つまり，テキストの内容を評価する力が不十分であると言える。前の話題を受けて自分の考えを述べていくという，関係づける力が弱いことが分かった。</p>
提案者 4	<p>第 6 学年の調査結果について説明</p> <p>・ 設問の意図 文章と表をつないで読み取る力をみるもの。</p> <p>設問 の期待する解答 A 「手紙と表とをつないで読み取れていた」は 3 6 % で，C 「手紙からしか書いていなかった」は 5 0 % であった。このことから，これから子どもたちに，文章と図やグラフ，表などをつないで読むこと，図や表のどこに何があるかを読むこと，文章と図や表を関係づけて整理すること，そういう力を付けていかなければならないと言える。</p>
司 会	<p>前半では主に P I S A 型読解力と言われているさまざまな観点で文章を評価して読み，それを表現する力の実態を中心に発表した。抽出児 1000 名の実態が浮き彫りになった。実態調査用紙が付けてあるので先生方の学校でもぜひやってみてほしい。</p>